



私にとつての留学

多くの人に支えられている私
椿 由美

人々の優しさが変えてくれた
大沼 恵理

コミュニケーション能力を磨け！
眞鍋 要一

留学という物語に参加しよう
佐藤 一平

ソウルに刻まれる経験を
稲葉 大

失敗しても、なんとかなる
小栗 正裕

ちいさな「気づき」が大きな財産
宇多川 薫

多くの人に支えられている私

留学中、ファミリーや友達に相談することはあっても最終的には何でも自分で決断をしなければならなかったことや、派遣学生としての立場から、精神的に自立できた面がありました。

しかし、それ以上に派遣先でファミリーをはじめとする初対面だった人に囲まれて一年を無事に過ごさせて頂いた経験から、自分は周囲のすべての人に支えられて生きているのだということを実感できたことは、今でも自分の考え方を大きく変えた要因となっています。

それは帰国後の受験勉強でもとても役立つように思います。

私は高等学校卒業程度認定試験（高認）を利用して高²に在籍しながら受験勉強をしなければいけませんでしたが、この高校で留年しているのは私だけだけでなく、今地球の裏側でも一年下で頑張っている同地区の派遣学生の仲間がいるのだから、と前向きでいることができました。

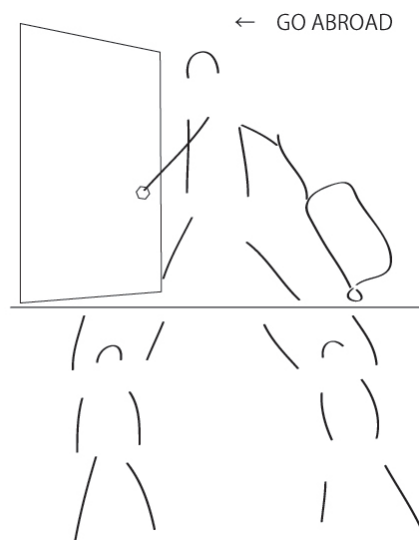
入試直前にはファミリーも応援のクリスマスカードを送ってくださり、ますます頑張ろうと思うきっかけになりました。このよう

私にとって留学とは…



椿 由美 (つばき・ゆみ)

2005年度にオーストラリアへ派遣。



に帰国後何年経っても揺るがない一生ものの人間関係は、誰にとっても大切な財産です。

留学先で私のことを何も知らない人たちに囲まれて、すべてがリセットした状態から生活を始めるという経験は、私自身を再発見させてくれる要因にもなりました。

派遣学生の皆さんは、いよいよ出発の夏を迎えますね。10代の今できることを沢山経験し、様々な壁を乗り越えて、皆さんだけの一年を作ってきてください。

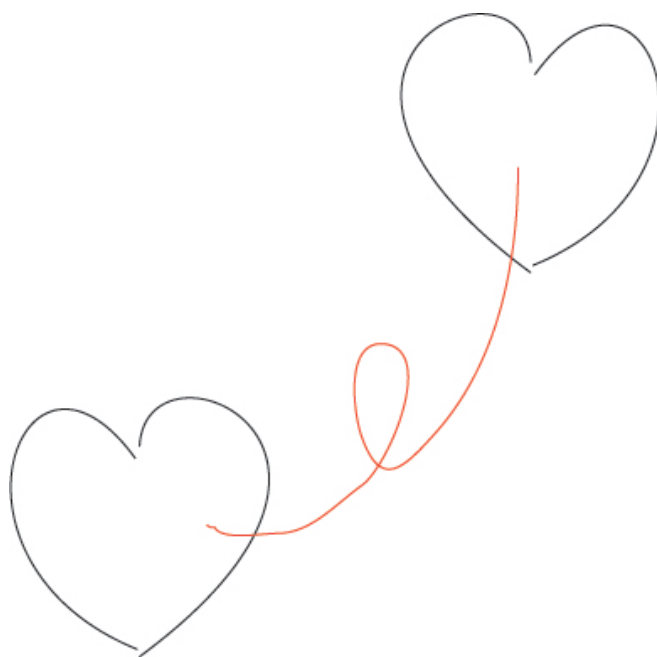
人々の優しさが変えてくれた

私にとって留学とは…



大沼 恵理 (おおぬま・えり)

2006年度アメリカへ派遣。



二〇〇八年度派遣のみならず！とうとうもう少しで皆さんの留学生活が始まりますね。きっと素敵な一年間を過ごすことでしょう。

でも皆さんはまだまだ高校生。留学生活の中で悩むこともあるかもしれません。そんなときは、**ROTEX**を見直してみてください。きっと助けになってくれるはずです。

私にとって留学は、私自身が変わる大きな転機でした。帰国後、「留学して角が丸くなったね」と言われたことがあります。確かに、留学前の私は今以上に気難しい人間でした。何が私を変えたのか。きっとそれは留学での「人々との出会い」であったと思います。

角々しく、つまらない人間な私を、温かく迎え入れてくれた現地の人々。特に**ROTEX**は、そんな私を気にかけて、世話もしてくださいました。彼らの優しさがあったからこそ、私は素直になれ、角々しさが緩和されたのだと思います。

留学前は、優しい人間になれたらと願うことなどありませんでした。

ですが今では、将来は人の助

けになることのできる仕事をしたいと望むほどになりました。**ROTEX**活動もその一つ。皆さんの助けに少しでもなれたなら、幸いです。

よく留学経験者が言うことですが、「留学は帰国して終わり」ではないのです。

留学で得たかけがえのない経験を生かすことができるのは、これからのことです。この恩が完全に返せるとは思ってはいません。しかしだからこそ、私は人生をかけて留学での経験を生かしていきたいと願うのです。

コミュニケーション能力を磨け！

私が留学した1990年代は、とばかり。

留学そのものが物珍しく、希望する人はそれほど多くありませんでした。そんな時代に私が留学を希望した理由は、単刀直入に言えば、NASA（アメリカ航空宇宙局）で働きたかったから。その夢を実現する第一歩として、留学をして語学力を磨き、世界と対等に意見交換しうる精神的な強さを身につけたかったのです。しかし、いま思うと、私が身につけた最も意義深いものは、語学力でも精神的な強さでもなく、コミュニケーション能力でした。ここでは、私が留学で身につけたコミュニケーション能力が、現在の私自身の職業にどう活かされているかをお話したいと思います。

現在、私はかつて留学したアメリカ合衆国で、パイロットになるべく小型機での訓練に明け暮れています。NASAで働きたいというかつての夢からは少し離れたかもしれませんが、大好きな空を飛び回る毎日、本当に刺激的です。しかし、訓練は楽しいことよりも大変なこ

とばかり。

管制官との交信はもちろん、訓練の多くが英語で行われるため、まず訓練生の前には言葉の壁が立ちほだかります。特に上空での教官や管制官との意思疎通は非常に重要で、これがうまくいかなかったら、訓練にならないどころか、ときには命の危険にさらされることもあります。

ここで重要となってくるのが、コミュニケーション能力です。相手の意図を理解し、また、自分の意図を伝えることが、素早かつ確かな判断が求められる空の世界では必要不可欠なのです。またときには、相手が何の言葉を発しているにもかかわらずその意図を汲むことが求められます。たとえば、管制官が次に出すであろう指示を予測し、それに対する行動を自分から伝えるとき、非常に効率的なコミュニケーションが取れるようになります。私はこれを、ひそかに「思いやりATC(※)」と呼んでいます。

日本人はよく、自己主張に劣ると言われますが、コミュニケーションに必要なのは自己主張ではありません。抽象的な表現になりませんが、コミュニケーションとは、相手の心と自分の心をつなげることです。日本人は、相手の心を読む能力に長けているのですから、コミュニケーション能力という観点では、有利な国民性を有しています。あとは、それをどう磨くか。

どの職業でも、コミュニケーション能力の必要性が問われています。あなたがどんな将来を歩むにしろ、その能力を問われる日は必ず来るはず。この留学という経験が逃すことなく、思いやり能力の高い人になってください。

※ ATC : Air Traffic Control の略で、航空交通管制のこと。主に管制官とパイロット間の交信のことをこう呼びます。

私にとって留学とは…



眞鍋 要一

(まなべ・よういち)

1998年度アメリカ合衆国派遣。

2005年慶應義塾大学卒。

パイロット訓練生として航空会社に入社し、現在アメリカ合衆国で訓練中

留学という物語に参加しよう

私はオーストラリアに一年間、行かせていただきました。

私にとって留学とは、ひとつの青春です。そこには、楽しさ、苦さ、悔しさ、達成感、多くが含まれています。

人生には、いくつもの区切り、いわゆる「季節」というものがあります。

そしてそれぞれの季節には、そこでは味わえない、または出会えない何かが、必ずあるのだと思います。

われながらオッサンくさい文章で恐縮です。

それぞれの季節には、当然、楽しいことばかりではありません。

それは当然です。留学は、アスレチックや、テーマパークに遊びに行くのと違います。

必ず、みなさんの留学にも、後悔、疑念、悲哀、そのどれもが訪れるかもしれません。

どうして、と思うかもしれません。

せつかくの楽しい留学なのだから。

私にとって留学とは…

佐藤 一平 (さとう・いっぺい)

2000年度オーストラリアへ派遣。

ら、みんなで楽しくしてくれればいいのに、と。

もちろん、多くのロータリアンの方がみなさんのためにたくさんイベントを用意しているでしょう。しかし用意だけされた楽しさは、本当の人生の楽しさではありません。

いつも参加者でいるようでは、本当の楽しさは、きつと味わえないでしょう。どうか少しでもいい、主催者として、主役として、この留学という物語に参加してください。

それは、傲慢に横柄に振舞えということでは断じてありません。自分から笑い、話しかけ、手を引き、約束を守り、責任を持つということですよ。そうしたとき、この留学という季節は、本当に人生において、かけがえのないものとなるはずですよ。

後悔や、疑念や、悲哀にも、どうか堂々と挑んでください。それらは、逃げ続ける限り、ずっと人生の中を追ってきます。現に、僕もそうでした。

最後ですが、どうかもしできたら、一枚でも二枚でも、洋楽にふれることをお奨めいたします。

日本よりはるかに安いです。そして日本ではほとんど一生お目にかかれないバンドもあります。

日本は誰かが選んだものしか、日本に入つてこないってことを知ると思えます。どうかこの機会に、いろいろ聞いてみてください。そして翻訳してみてください。

世界がもっと広がるはずですよ。最後に、人は成功よりも、挫折から多くを学びます。

しかしどうか、諦めは学ばないでください。

みなさんすべての留学が、かけがえのない「人生の時」になることを願って止みません

ソウルに刻まれる経験を

初夏のごぼうは、滋味が強く香り高い。そのお味噌汁を飲みながら考えました。

「私にとって、ブラジルの一年はなんだったのだろうか。」

それは、もう十年近く前の話。話せていたように感じたポルトガル語は、今となれば相槌を打つのもやつとのこと。「永遠の友人」、そう思っていた様々な国の留学生。連絡を取り合っているのは、

もう一人しかいません。私立大学の職員と言う今の仕事で、ブラジルに行った経験が発揮されることはまずありません。

十年。言葉を忘れ友人は去り、世界を股にかけた仕事をしている訳でもない。

「なんだい、情けない。それは君のブラジルでの一年はまるつきり無駄だったんじゃないか！」私の姿を見て、そう思う人があるかもしれない。あるいは、そう思われても仕方ないのかもしれない。

言葉、友人、そして将来。確かにそれらを、ロータリーの青少年交換で一年間の留学生生活を送っ

た「成果」として、しっかりと示すことができたなら、それは素晴らしいことでしょう。ですのでも、もしあなたが派遣先の言葉に堪能になり、多くの友人を得、国際的な仕事に就くことができたのなら、それは本当に誇りにできることだと思います。実際、そのような道を歩まれているROTHEXの方々も多いです。

言葉、友人、将来。私の「成果」はそこにはありません。

私の「成果」は、言うなればそれまで経験したことのない程の喜びと哀しみ、孤独をソウルに刻むことができたことでしょうか。交換留学の一年は全てがバラ色という訳ではありません。異国の地に独り身を置く少年、少女。色々な出来事があり、様々な思いが心を巡ることでしょう。それはもしかすると、日本にいたのであれば、ずっと過ぎ去ってしまうものなのかもしれない、気にも留めないものなのかもしれない。

しかし、交換留学のその時であれば、足を止め、しっかりと考えることができるように思いま



稲葉 大 (いなば・ひろし)

1999 年度にブラジルへ派遣。

私にとって留学とは…

す。「哀しみとは。孤独とは。しかし、喜びとは。そして私はどのように生きるのだろうか。」私にとっては、そのような時を持たたことの方が、人生に大きな影響を可視的にも不可視的にも与えたように思います。

今まさに旅立とうとしているあなたが胸を膨らませる通り、確かにこの一年はあなたの人生に大きな影響を与えることでしょう。

言葉も友人も、本当に大切なものです。ぜひ多くのものを得てきてください。

ただ、あなたの一年間の成否の鍵を握るのは、言葉や友人だけではありません。

場合によっては、それらとは全く違うものかもしれない。もちろん、それでいいと思います。言葉や友人と言った言わば一般的な基準だけであなたとあなたの一年がジャッジされる訳でもなく、また誰かのジャッジを気にする必要はありません。あなた自身が誇りをもてるならば、それは唯一無二の素晴らしい一年であったと言えることでしょう。

そう、大切なものは目に見えない、とよく言われます。

派手でなくても結構です。体の芯に沁みる新ごぼうの滋味のよいうな、ソウルに刻まれる経験の一年でありますように。

あなたのお目にかかったことも、今後お目にかかることもないかと思いますが、

ご活躍、そして旅のご無事を遠く京都より祈念しています。

失敗しても、なんとかなる



小栗 正裕 (おぐり・まさひろ)

2000年度アメリカへ派遣。

「私にとって留学とは」：、
難しいテーマですね。

まず、私が留学して学んだこと、についてですが、ほとんどなにかも知りません。もちろん、語学だとか、習慣だとか、細かいことなら結構あるような気もするのだけれど、今思い返してみるとその後の人生を変えるような「学び」はなかったような気がします。私の学ぶ姿勢に問題があったのかも知れませんが。

ただ、交換留学を通じて少し成長できたことならあります。一年の間にあつたことは、楽しいことばかりではありませんでした。やっぱり環境が変わることはストレスになるし、言葉は通じないし、他にも、まあいろいろありました。でも、それでも、なんとかなるものです。

留学中や帰国直後は「上手くやらなきゃ」という思いが強かったと思います。失敗は許されないと思っていました。でもそれからバイトや学校でいろいろ失敗して、失敗しても大丈夫なんだ、と

いうことがわかりました。今はむしろ失敗から学ぶことのほうが多いように思います。そして本当に取り返しのつかない失敗なんてそんなになんとも思いません。

最近やっと「あの時もなんとかなったのだから、きっと今度も大丈夫」そう思えるようになってきました。留学の経験も大きかったですと思いますが、その後のいろいろな経験があつたから辛い状況でも楽観的に前を向くことができるようになったのだと思います。他にも留学経験は私の人格形成に少なからず影響を及ぼしているとは思いますが、それは帰国直後からそうだったのではなく、むしろ留学を通してまかれた種が帰国してから芽を出してきたように感じます。

一年間というのは短いようでもやっぱり長いです。特に高校生にとっては。人生80年だとすると、一年というのはたったの1/80のような気がします。それは80歳まで生きた人の感想です。90歳の人の一年と、15〜18歳

のあなたの一年、どちらが貴重かは言うまでもないでしょう。

最後に1つコミュニケーションについて面白いデータがあります。

ある研究によると、人と会話をする時に聞き手が受け取る情報は、言葉そのものから得るのはたったの1%程度で、残りは話方や、雰囲気から得ているそうです。つまりコミュニケーションにおいて重要なのは言葉の流暢さではなく、伝えたいという気持ちなどではないか、と思います。

平坦な道ではきつと面白くないでしょう。寄り道、回り道、おいに結構だと思えます。困難な状況を楽しむくらいの気概で、この貴重な一年間に臨んでみて下さい。なんくるないさあ。

小さな気づきが、大きな財産へ

もう派遣学生だった頃から年月を数えて、両手を使うようになって驚いています。私にとって留学とは…この問いに関して答えは1つではないし、これから行くみなさんがそれぞれに感じて、いろんな答えを見つけていくものだと思います。どうか「こうあるべき!」と考えずに経験の1つとして、参考にしてもらえたら嬉しいです。

今回このテーマに触れ、オハイオで過ごした時から今までの6年間と私、について考えた結果、私にとって留学とは「気づき」の連続だったということです。留学をして大抵の人が、家族や友人の温かさ、周りの人の支えに気づいたと言います。私もその1人でした。離れなければ気づけなかったものかと思うと、寂しい気もしますが、そういう気づきは、留学中、帰国後の自分を支える鍵であり続けています。笑うことの大切さ、英語のおもしろさ、アメリカ人について、日本人として、自分自身について、宗教について、などなど派遣先では、今までの生活では気づ

私にとって留学とは…

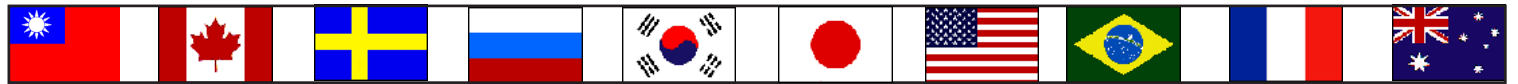


宇多川 薫 (うたがわ・かおり)

2002年度にアメリカへ派遣。

けなかった発見がたくさん出てくると思います。それは人と同じものでなくてもいいし、数も関係ありません。むしろ、帰国後に気づかされることの方が多いかもしれません。

帰国してから5年、私自身も環境も変わってしまったけれど、ずっと気づいてよかったなど感じていることは、出会いに感謝し続けること。文章にすると簡単に聞こえてしまふけれど、単純なことを自分自身の中で消化できた時は喜びと感謝で嬉しくなりました。これからいろんなドラマが待っているみなさんには、小さな気づきが大きな財産になるんだってことを大事にして欲しいなと願います。それでは、体に気をつけて、元気よく旅立って下さい。



R² は当 2780 地区多くの ROTEX の方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R² 編集長：杉岡 美季
(2005 年度韓国派遣)

R² 編集部より学生の皆さんへ

さて、この R² も皆様にとっては最後の号となりました。皆さんはこの号を最後に出発します。準備は整っていますか？

今回のテーマは「私にとっての留学」ということでした。先輩達は皆さんと同じように留学を経験し、そしてそれを消化吸収してきた方々です。その先輩方のアドバイスを聞き入れ、さらに先輩方を超越する思いで、これからの留学生活にぶつかってほしいと思います。

「青は藍より出でて、藍より青し」

ロータリーでの留学は他の団体での留学とは一線を画している留学です。皆さんはロータリーで留学するということを心に刻んで、誇りと自信をもって留学へ旅だっていってください。

皆さんが成長して無事に帰ってくることを待っております。

気をつけて、

いってらっしゃい！！

DIRECTOR: MIKI SUGIOKA

EDITOR: MASAHIRO ISHIWATA

SUPPOTER: ERI OHNUMA, AKITO TACHIIRI